

「自分らしさ」で三原の魅力を発信



▲「みはらうた4」を振り返るはるのさん(左)と会員の浦郷里枝さん

三原港の広場に設置されている巨大なスクリーンプロペラを「黄金に輝く翼」と表現したり、沖合の小佐木島を「ワニの形」と比喻したりするなど、独自の視点で市内の街並みや自然を紹介した文庫本サイズの小冊子「みはらうた4」。詩や写真、俳句、書、パステル画などを使い、他のガイドブックとは味違ったスタイルで三原の魅力を発信しています。

制作したのは、市内の飲食店店主や会社員など40歳代から60歳代の男女5人でつくる「しまのわ文庫実行委員会」です。平成26年に瀬戸内の魅力を発信することを目的に広島県と愛媛県が共同開催した広域イベント「瀬戸内しまのわ2014」に民間企画として参加したのがきっかけ。飲食店経営の傍ら、詩人としての活動もしている、はるのとおるさん(53)が、「大好きな三原のまちを市外の人にも紹介したい」と仲間たちに声を掛けてグループを結成しました。

平成26年に発行した1作目の「みはらうた」では、JR三原駅前や佐木島などの街並みや人物を紹介。初版が全てなくなるほどの好評ぶりでした。一方で、「作り終えた時に芽生えたのは、達成感よりも『まだまだ紹介できていない』という思いだった」と言います。このため、対象地域を広げながら2作目、3作目と制作を続け、令和3年3月、かわい



ユーチューブでも朗読動画を配信中▲

いピンクの表紙にダルマの形をあしらった最新作「みはらうた4」を発行しました。会員が大切にしているのが「自分らしい目線で作る」と。一般的な旅行ガイドブックにはない、日常の中に潜んでいるまちの魅力や、自分が感じたことを個性豊かに表現しています。読者からは「こんな視点での楽しみ方があるなんて思わな

かった。全ての冊子を読みたい」という声も届いています。今回は冊子の発行だけでなく、コミュニティラジオ局「FMみはら」でも掲載した詩を朗読したり、フェイスブックで冊子の制作過程を紹介したりするなど、さまざまなメディアを活用しています。

※この企画は、三原の魅力を発信するシティプロモーション事業の認定を受けた団体を紹介し、三原の魅力を再認識しようというものです。

<b>三原市の人口</b> (5月31日現在)	
※( )内は前年同月との比較。	
世帯数	43,504 世帯 (-313)
人口	91,102 人 (-1,547)
男	43,776 人 (-810)
女	47,326 人 (-737)
※うち外国人住民は 2,163 人	
人口移動の詳細については 広島県人口移動月報 <a href="#">検索</a>	

<b>税などの納期 (普通徴収)</b>	
○固定資産税・都市計画税(第2期)	○国民健康保険税(第1期)
○介護保険料(第1期)	○後期高齢者医療保険料(第1期)
納期限 8月2日(月)まで	
夜間収納・証明書交付業務の窓口(19時まで) 22日を除く毎週木曜日	
<b>航空機の騒音測定結果(5月分)(Lden)</b>	
▶正広局(本郷町善入寺正広)	=45.9
▶本郷局(本郷町船木川西上)	=49.4

**三原市公式LINEの中身を紹介②**

**「防災メニュー」をタップしてみよう**

※LINEアプリで「三原市」の友だち登録と情報登録(受信設定)が必要です。

緊急情報 (三原市ホームページ)  
避難所  
防災関連リンク集  
危険区域を確認できます  
市が発表している緊急情報が確認できます  
避難所の開設状況などが確認できます

問広報戦略課 (☎0848・67・6007)

**あ・と・が・き**

広島空港が用倉山にできるの空の玄関口が自分のまちにできるのかと耳を疑った思い出があります。しかし、山深かった場所がどんどん切り開かれ、近代的な建物に立派な道路が建設され、道路の路肩さえも色とりどりの花に包まれ、ついには大きな航空機の翼が飛び立って行きました。広島空港が三原にあるという夢のような出来事が、現実のものとなつてはや二十七年。三原市の日常の中で、あたりまえの存在となつた広島空港と共にこれからも歩いて行きたいと思えます。(S)

令和3(2021)年7月号  
第196号 毎月1日発行  
編集・発行 / 三原市広報戦略課

〒723-8600 広島県三原市港町三丁目5番1号  
代表 ☎0848-642111 ☎0848-647101  
E-mail: info@city.mihara Hiroshima.jp

再生紙と大豆インクを使用しています。  
点字版や録音CDも発行しています。  
問い合わせは広報戦略課 ☎0848-67-6007。